編集後記

今回は記念すべき「大分県地方史」二〇〇号です。光栄なことですが偶然にも編集子がこの号を担当することとなりました。そこで今回は文献史料のない時代の歴史をとりあげることにしました。やや古い言葉では先史考古学という旧石器時代から弥生時代までの特集としました。大分県地方史としては一九六四（昭和三九）年の三四号以来の企画となりました。編集子としては大分県の各時代の研究の現状をお知らせできればと考えました。

この企画に応じて、綿貫氏は日本考古学史に残る丹生遺跡と早水台遺跡という大分県の両遺跡の調査にまつわる学史を丹念に掘り起こしています。遠部氏は最近精度を増して実年代論を一新した炭素一四年代に関わる年代測定研究から大分県の縄文時代研究をまとめています。小柳氏は弥生時代中後期の県南地域の畑作地帯の歴史的ルーツを土器研究の観点から、荻氏は弥生時代の大分県の石包丁を石器研究の観点からそれぞれ論じています。編集子の意図が実現しているかどうかは読者諸賢の判断にゆだねることし、「大分県地方史」としてはやや雰囲気のことなる四三年ぶりの企画を諒とされたい。

（田中裕介）

平成十九（二〇〇七）年三月二六日　印刷
平成十九（二〇〇七）年三月三〇日　発行

大分県地方史　第二〇〇号

編集者　田中裕介
発行者　豊田寛三
印刷者　廣永晴巳
印刷所　有限会社　舞鶴孔版
〒八七〇－〇〇二二
大分市大手町二丁目三－四
（☎〇九七－五三二－四二三一）

発行所
〒八七〇－一一二四
大分市旦ノ原七〇〇
大分大学教育福祉科学部国史研究室内
大分県地方史研究会
（振替・〇一五八〇－二－五二九四）

事務局　大分県立先哲史料館
〒八七〇－〇八一四
大分市大字駄原五八七－一
（☎〇九七－五四六－九三八〇）